学び合う教師文化を醸成する校内研究の推進

学籍番号　229120
氏　名　延山　和弘
主指導教員　木原　俊行
副指導教員　餅木　哲郎

1～3章では，2022年度に筆者が研究主任として取り組んだK小学校の校内研究の企画・運営に関して述べる。2022年度末に筆者がK小学校からH中学校へと異動になったため，4～6章では2023年度に筆者が研究部員として取り組んだ校内研究の企画・運営に関して記す。

1. K小学校における校内研究の実態と課題

K小学校は,2017年度より「自分の考えを豊かに表現し,伝え合うことができる子どもの育成」を研究主題として，国語科を中心とした実践研究に取り組んできた学校である。これまでの校内研究の取り組みに関して，教師へアンケート調査を実施した。その結果，一定のレベルで校内研究が組織的にかつ計画的に実施されていることが示された。一方，校内研究や研修で得たことを日々の授業に十分には活かせていないことや，教師同士で日々の授業を参観し学び合えていないという課題が明らかになった。

2. K小学校における学び合う教師文化を醸成するための方針と計画

アンケートの結果より，研究授業後の討議会に工夫があったり，授業を見合うことができたりすればよいのではないかと考え，それぞれの計画を立てた。年3回の研究授業・討議会を計画し，研究授業の前後に授業相互参観を実施することで，より豊かに学び合う教師文化を醸成することができるように工夫した。

K小学校における校内研究の目的を教師間で共通理解するために，校内研究構想図を提案した。また，2022年度の校内研究の方針を確認するために研究全体会を企画した。2021年度までの成果と課題を各学年団で整理・協議することで，教師が2022年度の目指す子どもの姿を確認できるよう，工夫した。

3. K小学校における校内研究の推進

計画をもとに，全3回の研究授業・研究討議会を実施した。それぞれの研究討議会において，再現授業，Round Study形式，ICT×ワールドカフェと，異なる手法を用いた。それらによってK小学校の教師たちが学び合うことができた。

また，お互いに日々の授業を参観し合って学び合うために，授業相互参観期間を設定した。授業を参観する観点を定めた参観シートを提供したところ，経験の浅い教師も参観の視点を明確にしながら授業を参観できた。年間を通じて職員室の一角に「授業やります！コーナー」を設置した。授業者が参観してほしい授業に関して，その他の教師がその日時・場所・教科と内容について把握しやすいようにした。

各研究討議会のアンケートや教頭・指導主事に対するインタビュー調査の結果から，K小学校において学び合う教師文化が醸成されていることが確かめられた。

4. H中学校における校内研究の実態と課題

H中学校は「自尊感情とソーシャルスキルを育てる～学校が一枚岩となって取り組むH中タイム～」を校内研究のビジョンとして掲げ，H中タイムの取り組みを推進してきた学校である。H中タイムとは，ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを複合させた取り組みで，週に1回水曜日に10分間，全学年，全教師で取り組んでいる。また，H中タイムの指導に関する研修が月に1回mini研修として実施されており，全教師が短時間でH中タイムの取り組みについて学び合う機会があった。教師が授業を相互に参観することも珍しくなく，研究授業も各学期に1回実施されていた。しかし，H中タイムで培ったかかわり合う力が，日々の授業において発揮されていないという課題があることが学校長や学力向上主任へのインタビューから明らかになった。

5. H中学校における学び合う教師文化を醸成するための方針と計画

昨年度までの実践と課題を踏まえて，かかわり合う力を活かした深い学びを目指す授業研究と，その研究討議において学び合うことができればよいのではないかと考えた。そこで，研究討議会の改革に重点を置いて校内研究を推進する計画を立てた。研究主題を「かかわり合う力を活かした深い学び～協同学習における対話を通して～」と設定することで，H中学校がこれまで培ってきた校内研究の良さを継承しながら，学び合う教師文化を醸成できるよう工夫した。また，H中学校における校内研究の目的を教師間で共通理解するために校内研究構想図を提案した。

6. H中学校における校内研究の推進

計画をもとに，全2回の研究授業・研究討議会を実施した。第1回研究討議会では簡易的なRound Study形式を取り入れた研究討議に取り組んだ。校外からも7名の教師が研究討議に参加した。かかわり合う力を活かした深い学びを実現するための授業づくりの留意点について学び合うことができたことが，アンケートの結果から確かめられた。しかし，アンケートの自由記述においては，自分が担当する教科の授業づくりに活かすアイディアを持つことができている教師はごく少数であったことが課題であった。また，実施後に教頭と対話する中で，研究討議会の時間が短すぎたのではないかとの指摘があった。これらを受けて，第2回研究討議会へ向けた方針策定会を実施した。第2回の研究討議は60分以上の時間を確保して実施する方針を確認することができた。第2回目の研究授業と討議会は事情により同じ日に実施することはできなかったが，指導案の授業を校内の教師が分担して参観し，後日研究討議会を実施することができた。Round Study形式の研究討議を実施し，まずは参観した授業ごとの研究討議に取り組んだ。その後指導助言をもとに全教師で深い学びについて確認した後，担当教科ごとにグループを再編成して，自身の担当教科の授業において今日の学びがどのように活用できそうかという点について協議してもらった。実施後のアンケートの結果から，参加した22名中17名の教師が自分の授業に活かすアイディアを持つことができていたことが確かめられた。

また，研究討議会では深い学びを促す工夫についても議論され，「実生活に根差した問い」と「難しい課題に向き合う」ことが深い学びを実現する授業づくりには必要ではないかとされた。これら2点を踏まえて筆者が授業を計画し，実施した。授業を見学した，K教頭とS校長，K教諭，K教授のコメントから，筆者の授業が研究主題を体現するような授業であったことが確認された。

K教頭へのインタビューやT主任へのインタビュー，K教頭及びS校長との総括の結果から，H中学校において学び合う教師文化が醸成されていることが確かめられた。また，2023年度の校内研究を総括して，新たな校内研究構想図を作成し，提案することができた。